

ひびき

令和7年11月26日(水)
静岡大学教育学部
附属静岡小学校
3年 学年便り 12月号

焼津への道

早いもので、今年も12月を迎えます。まもなく3年生の「つどい」が始まるなど、「ひびき」の子どもたちは、これからの行事に向けて気持ちを高めながら日々を過ごしています。特に、焼津宿泊体験学習に向けては、実行委員を中心にグループ作りや役割決めを進めるなど、子どもたち自身が主体となって準備を進めてきました。



ある休み時間、廊下を歩いていると、教室で係の話し合いをする子どもたちに出会いました。そこに教員の姿はなく、決められた時間に自ら集まり、仲間と意見を交わしていました。自分たちで活動を創っていこうとする頼もしさを感じました。



給食の時間にも、いつもとは違う光景が見られました。自然の家では自分でおかずを取り分けるため、時間内に適量を盛り付ける練習をしていました。おぼんを持ち、お皿を取り、おかずをよそう……。慣れない工程に戸惑ったのか、落としてしまう場面もありましたが、すぐに「大丈夫?」と声をかけたり、ティッシュを持ってきてくれたりする姿があり、仲間を思いやるチームワークの芽が伸びていると感じました。

また授業中、チャイムが鳴っても授業が始められないことがあり、「今の状況をどう思う?」と問いかけると、「焼津でこうなるわけにはいかない。みんなの時間だから」と、すぐに「焼津」という言葉が返ってきました。そして、「こういう一つひとつのことが焼津につながると思うから頑張りたい」といった振り返りが生まれました。当日だけでなく、今の自分たちの心を整えていくことの大切さを感じたのかもしれません。

ウォークラリーに向けては、コマ地図を使い、校内と駿府城でミニウォークラリーに取り組みました。あるクラスでは、休み時間に自作のコマ地図を手に、楽しそうに校内を巡る子の姿も見られました。理由を尋ねると、「コマ地図の読み方がわかるようになったから、もっとみんなで楽しめると思って」と話してくれました。

いよいよ明日から、焼津宿泊体験学習が始まります。この日を迎えるまでに、どの子にも、どの班にも、どの係にも、そしてどの学級にも、それぞれの「焼津への道」がありました。今回の活動は、子どもたちにとって初めての「泊を伴う集団活動」です。「協力する」「自分のことは自分で」「時間を守る」など、活動で求められることも多く、不安や戸惑いを感じたり、うまくいかなかったりしたこともあったと思います。それでも、その気持ちを抱えながらも頑張る「ひびき」の子どもたちの根っこには、「みんなで楽しみたい」という前向きな思いがあるのだと感じます。

子どもたちが帰ってきましたら、自分の力で挑戦し、仲間とともに乗り越えたその姿を、ぜひたくさん認め、励ましていただけたらと思います。「ひびき」の歩みは、これからも続きます!

